早期景気観測調査　新潟商工会議所管内　8 月分　各業界からのコメント

◎建設業

・コロナウイルスがなかなか収束せず、影響は長く続いている。
・2020 年 4 月から現在に至るまで、社員や外注先でコロナ感染者が出なかった。しかし、ここにきて社員にも外注先にもコロナ感染者が増えたことで、受注や工程に影響が出てきている。5 類への引き下げが必要だと感じている。
・長引くウクライナ情勢の影響もあり、原材料高等、ガソリン代、電気代の高騰が続いている。
・ウクライナ侵略により石炭価格が上がり、セメントの価格が上がってきており、生コン価格が上昇中。
・これまで進めてきた顧客の建設投資計画については、インフレによる仕入価格上昇のインパクトが大きく、価格転嫁交渉を丁寧に進めている。
・コロナ感染者急増中でも社内での特別な行動制限はなく、従来の基本を徹底しているが、家族等を通じた感染者あるいは濃厚接触は増加している。
・機械修理部品（インバーター等の電気部品）の納期が不明なのが非常に心配である。当面の緊急対応とし、中古部品の再生を試みている。当社は修理サービス業なので必要とする部品の入手ができないと顧客からの信頼を失ってしまう。

◎製造業

・現場工事関連の人手不足が相当に深刻。
・コロナの大流行が企業に浸透し、影響し始めてきたのが心配。
・新型コロナウイルス感染者数が増加している影響で、社員が濃厚接触者あるいは家族から感染してしまうケースが多く見られた。待期期間の関係で、休まざるを得ず操業するのに人数が足りず、一部生産調整で対応している。
・仕入原料も天候不順と円安、そして燃料等の大幅な値上げの関係で製品コストが大幅に上昇した。さらに、最低賃金が大幅に上昇することが決定したので、今後の経営環境が一層悪化すると思われる。
・価格転嫁できない。
・酒造関係タンクに関しては、数は多くないが堅調。半導体設備関係はどこも忙しいが波はある。戦争、中国が非常に心配。

◎卸売業

・公共資材の卸売りで秋口から年末まで繁忙期に入る。
・第 7 波の影響は思ったより少なかったが、感染により人員配置に大変苦労している。1 日も早く 5 類指定にしてもらいたい。
・新型コロナウイルス第 7 波の収束を願うばかり。
・新型コロナの爆発的な増加により、外食や宿泊等の需要が減少傾向の上、猛暑、食料をはじめとする物価上昇を受け、家庭消費の減少傾向も懸念される。

◎小売業

・売上は前年と同程度であるが、コロナ前と比べると 3 割減である。
・物価高騰・原材料高騰による支払額の増加に加え、コロナ感染拡大に危機感を覚える。
・コロナの第 7 派は先行きへの不安材料であるとともに、ロシアの侵略戦争の影響が大きいと感じる。
・今回、新潟まつりのイベントである大民謡流しが中止になり、コロナの影響は大きい。

◎サービス業

・感染防止対策でテレワークを推進しているが、家庭内感染が多く、効果が期待できない。例年以上の暑さとコロナ感染の終息を願うばかり。
・まだまだ感染者数が増え続けているため、各イベントが中止になったり延期になったりしている。新型コロナが 5 類への引き下げが言われているが、夏季休暇が入るため、爆発的に感染者数が増えないか心配なところもある。追加の経済政策が必要と思う。
・今年は 3 年ぶりに新潟まつりが一部開催できたため、その関連の業務も発生したほか、他のイベントも開催となった関係で売上が昨年より上昇した。しかし、ここにきてまた感染拡大のため今後の見通しが不安である。
・原材料はじめガソリンなどすべての価格が値上がりになり、利益確保のために転嫁の対応が必要となる。
・コロナ感染拡大を受けて人流が停滞していることと、感染者が出ることにより営業ができず臨時休業を余儀なくされた。
・仕入価格は上昇し収益を脅かしている。今後は賃金の引上げ等による影響もあり、人流停滞、物価上昇、人件費上昇と人手不足を入れて四重苦となる。仕入価格上昇は値上げで対応できるが原材料不足は如何ともしがたい。早く世界が平穏な環境に戻ることを期待している。
・物価高や原材料高騰に加え、オミクロン株への置き換わりによる感染者数の爆発的増加により、荷動きが鈍い状況が続く見通し。
・原材料高騰の動きが止まらないため、見積りの期限も難しくなってきている。
・3 月に県の「まん延防止等重点措置」が解除され、ようやく人の動きも活発化しはじめ、運送収入も順調に回復に向かっていたが、この最近の急激な感染拡大で、再び元の状態に戻ってしまった。夜の仕事が少ない。
・燃料、タイヤなどの仕入は値上がりを続け、経営は最悪な状態。
・色々なイベントなどが再開され、賑わいを見せ戻りつつあるかと思ったらコロナ感染が増えはじめ、また、ブレーキがかかっている状況。
・給料は上がらないが、物価は高騰を続けている。我慢の時だとは思うがいつまで続くのか。
・新潟まつりでは民謡流し中止や花火の延期が決まり、産業界および市民のコロナ感染拡大による景気後退感の影響で経済活動が自粛ムードとなることが心配される。現状、コロナとロシアのウクライナ侵攻のダブルショックの影響が続いており先行きも見通せない状況である。
・消費者物価の上昇に伴い、実質賃金も上昇するかが課題であろう。政府は最低賃金を全国平均で 31 円引き上げるようだが、これも地域格差があり効果は限定的なもので景気浮揚には時間がかかる。
・コロナの第 7 波によるダメージがあまりにも大きい。ようやく人流の回復や各種イベントの復活なども出てきていたが、ここに来て急ブレーキがかかっている。コロナ前に回復どころか前年を下回る状況で、このままでは経営の存続も危ぶまれる。

・最低賃金の引き上げが発表されたが、業種によっては致命的な決定だと考えられる。弊社もこの中に含まれ、難しい判断が続くものと思われる。
・コロナによる外出規制が無いため、人流は回復傾向にあり売上も前年対比では改善しているが、一方で円安と物価高で採算が取れず、苦しい営業を強いられている。
・これといった原因は不明だが、たくさんの問題が重なり 6、7 月の売上は最悪だった。8 月後半からは少し仕事の予定が組めるようになった。9 月も何とか伸びそうであるが、毎月毎月どうなるか不安である。
・建築設計業界は 3 年に及ぶコロナの影響はそう大きくなく、緩やかな下降で留まっている。しかし、全体的な業況の悪化で設備投資が減少することは明らかで注意を要する。